

令和7年度 第2回 高知県立図書館協議会・高知市立市民図書館協議会 議事録

○日時

令和8年2月17日(火)14:00～16:00

○場所

オーテピア4階 ホール

○出席者

別紙出席者名簿のとおり

○開催内容

1 開会

市民図書館長あいさつ

議事録署名人の選出・・・花房委員

2 議事

(1)第2期オーテピア高知図書館サービス計画の取組状況について

(2)次期サービス計画の策定について

(3)その他

3 閉会

県立図書館長あいさつ

○議事録(※議事内容について事務局から説明後、意見交換)

議事(1) 第2期オーテピア高知図書館サービス計画の取組状況について

(2) 次期サービス計画の策定について

(委員)

説明を聞いて、情報を流すということが非常に重要ではないかと思う。学校現場にいても、子どもたちや教員はこの図書館がどんなことをやっているのか、漠然と本があるということぐらいしかわからない。児童サービスで話があったように、小学校などに少しずつでも出前授業をしていただく、また、私も関わっている、今年の夏に実施予定の研修会で教員が集まったときに、「図書館がこういうサービスを行っているので、授業でも使ってください」という広報をしていただければ、それを聞いた中の数名が利用し、そこからどんどん網の目のように広がっていくかなと感じた。本当にいろいろな取組をしていただいているので、児童サービスについては、学校にそういう広報の機会をどんどん広げていけばよいと思う。

それから、タブレット端末で電子図書の貸出しもできるので、紙と電子の本のどちらも使えて、選べることはとてもよいことだと思っている。

(委員)

今日は3点話をさせていただく。1点目はお祝い、2点目はお礼と感謝、3点目は新たな提案。

まず、お祝いは今回出されたコトノハVol.21にも出ているが、ライブラリー・オブ・ザ・イヤー2025において、全国のモデルになる図書館ということで大賞を受賞されたこと。この図書館協議会をはじめ、いろいろ

なところのご意見を真摯に聞かれて、日々改善されてきたことの成果が全国的に認められたと思って、高知県民としてとても誇らしい気持ち。毎回、図書館協議会の資料の作成にすごく労力を使われていると思うけれど、その中で職員の方々がいろいろと改善点を見極められて、全国に誇れるオーテピア、そして、高知県の図書館教育になってきたと思っている。

2点目は、今回のコトノハ4ページにも出ているが、電子書籍サービスの読み放題パックが導入され、学校にもこの読み放題パックのチラシが配布されていたこと。以前、少し要望させていただいたけれど、それが実現したということで、こちらを導入するにあたって予算などいろいろ苦労があったのではないかなと思うので、その話を聞けたらと思っている。

この読み放題パックに、どんな本があるかを見ていたら、とても興味深く、我々が読んでみたい、また、子どもたちに読ませたいと思うタイトルがたくさん並んでいた。学校図書館と教育委員会、教育研究所との連携も積極的に進められていることには本当に頭が下がるが、現場の先生と少し話をしたら、せっかく読み放題パックが入ったけれど、まだもう少し使いにくいところがあると。贅沢を言うときりがないが、特に、読み放題パックにアクセスするときのパスワードについて、クラスの中のほとんどの子どもはわかっているが、どうしても忘れて子どもがいる。パスワード再設定の項目のタブもあるけれど、パスワードを忘れた2人ぐらいの子どもの再設定をしていると、1時間の授業が終わってしまう。学校側の準備の不便があるかもしれないが、デジタル教科書と同じようなアクセスの方法であれば子どもたちは日頃から慣れているので、使いやすくなるのではないかなという意見がある。

それから、贅沢を言うときりがないが、学年別に3年生なら3年生のボタンを押すと、3年生で使うコンテンツが出てくるなど、もう少し改善されるともっと読み放題パックが使えるのではないかなという意見も聞いている。

最後に3番目の提案だが、高知市教育研究所には研究員制度があり、学校現場の先生が研究員になって教育に関するいろいろな研究を進めている。この図書館も教育委員会の中の1つの組織なので、図書館の職員と学校の先生と一緒に、読み放題パックを学校教育にどのように活用していけるかを研究し、それを高知市内で広げていく。今回導入されたコンテンツを見るとすごくよいと思うけれど、学校現場の先生からはまだ少し使いにくいという声があるので、大きな1歩を踏み出して、図書館と学校現場の先生と一緒に、どうしたらより活用しやすいかという研究を進めていくことができればよいのではないかなと思っている。

(事務局)

ライブラリー・オブ・ザ・イヤーについてお褒めの言葉をいただき、ありがとうございます。

読み放題パックは去年の7月から導入をしている。一番大変なのは費用で、読み放題パックは自治体の規模によって値段が全然違う。人口3万人くらいの規模の市が3万円程度で購入できるものが、当館は中核市の扱いなので30万円ぐらいになる。市町村の人口によって利用者数も違うという見込みで算定されていると思うけれど、当館が購入しているものは最高額で、1冊当たりかなりの金額になっている。そうは言っても、読み放題パックはクラス全員が同じ本が読め、すごく魅力のあるものなので、徐々に数を増やしていくように取り組んでいきたいと考えている。

あと、ログインのときのパスワードを他のものに合わせてというところは、検討課題として考えているけれど、すぐには進まないと思う。また、利用の申込みには保護者の同意が必要な関係でなかなか進んでおらず、県内で今、34市町村のうち、高知市を含めて10市町村でしか登録できていない状況。そういった部分での課題もあるので、全体としてももう少し研究をしないとイケないと考えている。

あと、ご提案いただいた教育研究所の연구원の方との連携については、利用の増加にも当然つながるので、主には高知市での対応になると思うけれど、そこはしっかりやっていくようにしたいと思う。

(委員)

まず、去年すごく話題になった映画があって、絶対にこの映画の原作を読みたいと思い、図書館の本を検索したら、所蔵は10冊あったけれど、既に全部借りられていた。10冊購入したという判断もすごいと思ったし、それが全部借りられていることに、それだけの人が飛びついて借りたんだと思った。今、生活が厳しかったり、本もすごく値上げされていると感じているので、知のセーフティネットの役割を図書館が果たしていると思った。私は行くのが少し遅いので、他のドラマの本も、買えない人がみんな飛びついて借りられていた。図書館はそういう生活の面においても、すごく役立っていると思う。

あと、学校関係の方が学校教育のことを話されたので、私は不登校や障害がある子のボランティアに関わっていることから、そちらの立場で話をしたい。資料4で感じたことだが、学校へ行けない子は学校の図書室にも行ったことはないと思う。私の子どもの頃の経験で言うと、急に図書館へ行くよりも、まず学校の図書室が導入になって、それから図書館へ行ったという感じなので、その子たちは多分、図書室や図書館には行かないと思う。電子図書館もあり、力を入れているけれど、そこにたどり着くのはなかなか大変だろうなと思いつながり資料を読んだ。今の子は学校へ行けなくても YouTube などがあり、コンピューターリテラシーについても、小学生の頃から結構身につけている。学校には中学ぐらいから行かない子が多いけれど、電子図書館にも力を入れていて、なるほどなと感心した。

それと、図書館にも関係があるような不登校の相談会もされているので、なかなか図書館も大変だなと思いつながり感心した。

広報は届かないと意味がないので、どうしたらみんなが読んでくれるかと思うところもあるけれど、頑張つてほしいと思う。

それから、先ほど移動図書館が高知と福島だけになったと聞いてびっくりした。以前担当していた、障害者施設にいる女性の方は移動図書館をすごく楽しみにして本を読んでいた。発達障害だが本を読むのが好きで、移動図書館をすごく楽しみにしていたので、大変だとは思いつながりけれど、ぜひそういう方たちのために続けていただきたいと思った。それから、母が入所している老人施設にも来ていて皆さん楽しんでいるので、もし予算がなくて間隔が長くなったとしても、やめないで頑張つていただきたい。

(事務局)

都道府県立図書館として移動図書館を運行しているのは高知と福島だけ。市町村立図書館はかなり多くのところで運行しているし、高知市民図書館の移動図書館は、これまでどおり回っていくので、そのご心配はないかと思う。

(委員)

エールです。本当に頑張つてほしい。

(事務局)

都道府県立図書館で言うと、高知が全国の1番目で、千葉とどちらが先かという話はあるけれど、高知県立図書館の移動図書館には歴史がある。

オーテピアの整備をする際にも、随分と議論をしたが、市町村には移動図書館よりも物流便でしっかりと図書を届けて、そこから先は市町村に汗をかいてもらうというか、住民のニーズをくみ取りながら図書館運営をやってもらいたいというのが正直なところ。

ここ数年、新館の整備ができたところは、ある程度自立してサービスを提供していくようにしてくださいとお願いをしている。

その一方で、公民館の図書室しかないところがまだ10町村あり、そこについては図書室から町内や村内全域にサービスを提供するのはかなりハードルが高いので、県立図書館の移動図書館としては、そういったところに重点を置いてサービスを提供していくようにしたい。

(委員)

まず、このサービス計画進捗管理シートを見る限り、本当に細かなところまで、いろいろ試行錯誤しながら、全ての人を対象に本の提供を行っていることに感謝する。

それと、(サービス計画が)第2期、第3期と進んでいくわけだけれど、図書館も社会の変化とともに取組内容が変わってくる。それが全てその時代に人が生きていくために必要な材料を蓄えてくれていると思うと、もう感動しかない。

今の時代だからこそ、こういうことが今後の課題で、こういう資料を作ろうと考えていると思う。先祖調査や偉人研究に役立つ高知の資料、情報リテラシーの基本の講座で紹介する資料、新規採用職員研修で提供する資料、その他にも、学校ならば高知国際中学校高校、高知商業高校、山田高校については探究を以前から進めているので、そこへの資料の提供は必要だと思う。

(委員)

1-2の情報リテラシーの向上支援で、今後の取組としてレファレンスのニーズの高い先祖調べに関する講座を実施予定と書いているので、どのようなものなのかお聞きしたい。

(事務局)

先祖調べに関する講座は2月15日に開催した。講座では、調査の資料をいろいろ紹介したが、なかでも江戸時代から明治時代初めにかけて家ごとに作成された年譜は、当主の名前や年代が書かれているので、先祖を知るための大きな手がかりとなる。また、高知県にある姓のルーツについて書かれている資料がいくつかある。そういう資料を使って、先祖をたどっていくことができるのではないかということについてお話しした。

最近のレファレンスで多いのが、昔の住所から現在地を特定できないかというもの。地番や地名は変わるので、なかなか回答に到達できないが、ある程度の特定が可能となる場合もある。

(委員)

今、高校生や中学生、そして、地域の人たちが興味・関心を示して探究に取り組んでいる。それが全てこの資料の中の今後の取組に入っている。義務教育でもすごく探究を行っているけれど、高知商業高校と山田高校については探究が優れているということで、直接生徒に話を聞きに行くスタイルをとっている学校もある。

そんな中で、時代と社会の変化とともに図書館の内容を充実させてくださっている皆さんに感謝を申し上げます。

(事務局)

県立学校の支援、連携については、図書館は図書館法、学校図書館は学校図書館法があって、本来は似て非なるものというか、必ずしも一致をしていないということもあり、高等学校の支援については学校図書館を通じた間接的な支援を考えていたけれど、高知県内の場合、学校の中で学校図書館の位置付けが必ずしも高くない、十分な職員の配置がなされていないという実態がわかってきた。それなら我々が直接、学校図書館と一緒に、教員や授業への支援をやっていったらどうかと。今年度モデル的に、これまでと比べてかなり踏み込んだ形での支援を行ってみたことで、団体貸出の利用数も従前に比べて相当増えてきた。来年度、引き続いてどこまでできるかわからないが、学校の実態、学校図書館との位置付けをしっかりと踏まえた上で、ある面、高知モデルみたいになるかもわからないが、そこはしっかり支援をしていきたいと今年度取り組んでいる。

(委員)

私からはバリアフリーに関係する調査結果について、数字を見ると私達の団体も含めて、まだまだ啓発が足りない。50%以上の方がサービスを知らないということになっている。実際のサービスは皆さんのおかげで毎年充実してきている。今回、最初の方で電子図書の充実の話などがあった。私は年代的に詳しくないけれど、その電子図書は基本的にはテキストの読み上げは大丈夫か。

パソコンとかタブレットでもよいけれど、電子図書の文字を読み上げてくれるのは大丈夫なのか。

(事務局)

電子書籍そのものに読み上げ機能がある。ものによって、読み上げ機能がついているものと、そうでないものがある。

(委員)

なぜかという、電子図書で読み上げができると、視力障害のある方の読書に非常に有効だと思っている。元々のサービスで対面音訳はあるけれど、その場合、実際にこちらへ来られるということになってしまう。視力障害のある方は、我々より個人で出歩く機会が少ない。私の知り合いにもいるけれど、中途失明の方のように、見えていたときは読書を楽しんでいた方にとっても、自宅で読み上げ機能の利用ができるようになると、文明の利器という感じで喜んでもらえると思う。

アンケート結果を見ると、まだまだ来てくれていない方がいるが、思い込みもあると思うので、私達の団体も含めて、できたらもっと図書館の利用を促していきたいと思ったのでよろしくお願ひしたい。

(事務局)

今回の(バリアフリーサービスの)アンケートは、関係団体を通じてお願いした。

広報についてはかなり手広くやっているけれど、ある面、一般的な広報はそろそろ限界がきてるのかと認識している。これからは支援者や関係者を通じて、オーテピアはなかなか便利に使えるということをどんどん広げていくことが、遠回りのようで一番の近道で、確実に利用者を増やしていく方法ではないかと。従前型の広報もやっていくけれど、両面でしっかり広報に取り組んでいきたいと思う。

それから、電子書籍は選書する段階で読み上げ機能があるかないかということも一定目安にはして、

できるだけ音声読み上げできることを考慮しながら、選書をしていきたいと考えている。

(委員)

いつもありがとうございます。この報告を聞くのがとても楽しみで、本当にこの1年、皆さんが心血注いで図書館サービスを提供されてきたというのがすごくよくわかった。

私からは1点だけ。何かというと、図書館は心の栄養を提供する場所だと思っている。本質的なサービスということではなく、副次的な価値かもしれないけれど、心の栄養を提供する場所。私は以前、大阪に住んでいて、心が疲れて会社を休むときもあったけれど、そのとき最初に行ったのが図書館だった。図書館に行っているいろいろな本を読み、いろいろな本に触れて心をメンテナンスして復職したという経験がある。私はビジネス支援を専門にしているが、最近メンタルヘルスの不調で休職する従業員の方がいるとよく聞く。その原因は様々だとは思いますが、傷ついた心を癒やす図書館でもあってほしい。そういう貴重な場所だと思っている。

傷ついた心を癒やすという意味で、次期計画に非常に前のめりな姿勢で、世の中の人々のためにさらに役に立ってほしいという形で、スマートシュリンク、情報リテラシー、デジタルAIを掲げている。前回のこの場で私も生成AIについて、活用する力を育むための工夫をぜひしていただけたらと申し上げたけれど、そういう攻めの姿勢も非常に大事だと思う。その一方で、心の栄養をとりに来る、そういう場所でもあってほしいと思っている。

例えば、デジタルデトックスを徹底的にするとか、図書館はそういう場なんだと売り出していくのも1つの方向性ではないかと。全方位型をうたうのであれば、そういった方面にも目配りをするとさらにより計画になっていくのではないかと考えている。

私は生成AIを今朝もずっと使っていたけれど、1日に3、4時間ぐらひは生成AIと対話しながら仕事をしている。生成AIと3、4時間も話していたらだんだんイライラしてくる。何でそうじゃないんだ、こうなんだ、何度言ったらわかるんだ、みたいなことでけんかしながら仕事をしているけれど、そうするとだんだん疲れてくる。そうは言っても、私の仕事の効率化は、多分1.5倍ぐらひに上がっていると思うが、逆に疲れも出てくるので、生成AIを使うことが当たり前になりつつある現在、心を癒やす場という意味での価値や、そういう場の提供ということにもぜひ目配りいただけたらと思っている。贅沢なことを言ってすみません。

(事務局)

確かに、デジタル化を追求する一方で、紙の資料の魅力や空間の魅力が図書館にはあると考えている。ライブラリー・コンサートなどの文化的な行事も絡めながら、居心地のよさや雰囲気よさといったものを加えることは非常に重要だと考えている。

両にらみだとは思いますが、新しいことを求める方には生成AIなどのリテラシーに関する学習の機会を提供し、いわゆる癒やしを求めたい方には、環境にも目配りを欠かさないようにすべきということが、非常に大事な視点だと思って話を伺っていた。

(事務局)

生涯学習の場として居心地のよい空間というのは、我々がこの図書館を設計するときに基本に据えた部分。ビジネス支援や課題解決支援は、あくまでこういうことまで図書館でできるんですという付加した部分。やはり誰もが気軽に立ち寄れる場所というのが基本にあるべきだと思っているし、例えば、ティーンズサー

ビスでは、本に親んでもらうというのが基本にあると思う。立場上、読書体験記の審査などをさせていただくことがあるが、普段から本に親んでいる子どもの書く文章は語彙も豊富だし、感受性も豊かというところが読み取れる。そういう部分は基本として大事にしていきたい。日常的に本に関わるということも重要視すべきところだと思うので、本当に貴重な意見をいただきありがとうございました。

(委員)

今の話、いわゆる居場所論と非常に共通するところがあるし、これからのAIとの付き合い方として、利用者のことを考えながらAIから離れることもしなければならないという矛盾を解消する場として、資料3-1の児童サービスの成果と課題の④の2つ目の白丸にあるように、保護者や本人に安心できる居場所としての図書館を体験してもらう。はっきりと意識してかどうかは別として、このところをもっと広く展開していくことが視野には入っていると考えてほしい。貴重な意見ありがとうございます。

(委員)

皆さんのお仕事ぶりには毎回毎回、頭が下がる。

ライブラリー・オブ・ザ・イヤー2025、本当におめでとうございます。この知らせが届いたとき、私の鼻もなぜか少し高くなった。この資料を見て、ほらね、やっぱりね、こういうことなんだよねと思った次第。いろいろな企画やイベントをしてくださり、それがすごくすてきだと思っている。

私はプラネタリウムのすごいファン。家族で来たときに、ちょうど小学校の夏休みの自由研究の展示をしていて、見ているとすごく楽しかった。作品を展示された方のご家族やお友達はオーテピアにそんなに興味なくても来るだろうし、足を運んでくださることが増える。それは、いろいろな企画イベントでもそうだと思う。

石川県立図書館はすごく利用者数、入館者数が多いということだけれど、地元のアニメとのコラボ、謎解きイベントやコンサートなど、すごくいろいろな企画を練っている。でも、高知のこのオーテピアも、小さいながらもすごくいろいろなことをしてくださっているのだから、本当に頭が下がる。

自分の少し関わっているところで言うと、1月に手づくり遊具展をまたここでしていただいた。私が現役の保育士のころは、自由民権記念館でやっていて、手づくりのままごとコーナーやゲームコーナーがあったり、ちょっとした手づくりのおもちゃをそこで作って持って帰るという内容で、高知市のいろいろな保育園の保育士が、3日間ぐらい交代で行うという企画をしていた。図書館ではそんなスペースはなかなかないと思うけれど、1日か2日もしくは何時間かでも、手づくりのちょっとしたおもちゃを作って持って帰れる、そして、手づくりのいろいろな遊具を見せるコーナーがあるような企画もできればよいと思って見たことだった。

それと、市民啓発の地域共生社会について学べる「ほおっちょけんがオーテピアをジャックする!？」のイベントもあって、フードドライブでたくさんの寄付があったようで、それも本当にすてきだと思った。

朝ドラとのコラボや、ビブリオバトル、ひきこもりピア相談会など、硬軟いろいろ取り混ぜて企画を練ってくださっているのだから、ぜひ続けていただきたい。ティーンズ部のリレー小説は今、休止しているということだったけれど、ぜひこれも続けていただきたい。これから高知を作る子たちなので、よろしく願いたい。

もう1つ、以前の会議の際と、先ほども委員の方がおっしゃっていたけれど、図書館へ来る機会の少ないご家庭、それと、過疎地域に住んでいる方や高齢者の方には、学校図書館や分館・分室、移動図書館の重要性がすごく大事になってくると思う。

私が以前いた保育園では、クラスとは別に玄関の横にソファを置いて、少し前の季節だったら鬼や雪だる

まなどのかわいい飾りと季節の本と一緒に飾って、ちょっと本が読めるスペースを作っていた。

この間、「ほおつちよけん」学習で地域の中学校へ行ったら、学校の玄関先に「玄関移動図書」を作ってくれていて、そこでも本が借りれるようになっていた。見せ方がすごく上手で、上側には生徒の行事の写真が貼ってあり、その下にいろいろな絵本と新着図書を平積みしているコーナーがあった。そんなに大きくはなく、このテーブル2つぐらいのコーナーだった。12月だったのでクリスマス関係、それから、大谷翔平関連として、「大谷翔平 80の言葉」、「大谷のバットはいくら？」などの本があった。

あと、「あんばん」の影響からか、やなせたかしさんの「ぼくは戦争は大きらい」、小学生に大人気の「大ピンチずかん」、「世界は行動経済学でできている」といった硬派な本もあつたりして、本当にすてきだと思った。これはきっと、講習や研修などの成果もあるのではないかと思った。やはり学校図書館は、すごく大きな位置を占めていると思うので、講習や研修を続けていただけたらと思う。

それから、多文化交流について、私は民生委員もしていて、私の地区には外国の方がいないけれど、すぐ近くの地区には東南アジア系の方がいて、そこで問題になっているのがごみ出し。きちんと出してくれないとか、いつも出しっ放しとか、民生委員にすごく苦情が来る。資料の3-3に、家庭ごみの出し方のチラシを館内で配布とあったけれど、お構いなかったら、ぜひNPOの外国人支援の方や外国の方が働いている、例えば、高齢者施設、また、マンスリーマンションに住んでいる方が多いと聞くので、そちらの管理の方への配布も少し考えていただけたら。そういうなんでもないことで、せっかく働きに来ている外国の方が住みづらくなったり、住民の方といざこざが起きないようになれば。先ほども言ったけれど、移動図書館は高齢者施設にも行くと思う。外国人向けの本や絵本は、大きな字やわかりやすい文字、漢字にもふりがながついたりするので、そこで外国の方が働いていれば日本語の勉強にもなると思う。高齢者と職員に対しての癒やしだったり、先ほども中学校の話で言ったけれど、鈴木のりたけさんの「大ピンチずかん」、今すごく人気のヨシタケシンスケさんの哲学的な絵本などが、職員、高齢者、外国の方の手助けになるのではないかと思う。直接的な手助けにはならないかもしれないけれど、絵本も一緒に少し加えていただけたらと思った。

あと、広報は大分やり尽くしたみたいなお話があったけれど、いろいろ工夫してくれている。以前の会議でスタンプラリーみたいなこともあってもいいねという話があったけれど、他県の温泉へ行くと、高知県の温泉と一緒に掲載してくれている地図があつたりして、いろいろなところで高知県が広報されている。図書館が新設されたり、個性のある図書館が出てきたりしたので、オーテピアに来た方には他にもこんな楽しい図書館ありますよ、他の図書館へ行つた方には、他にもこんな図書館がありますよ、オーテピアはこんな場所ですよというような広報だったり。今、図書館とホテルが連携してコラボした宿泊パックがあるという話も聞く。梶原などはそれに出ていた。ここは公共の施設なので、そういうことができるかどうかかわからないけれど、いろいろな広報の方法があるのでは。旅行者向けのガイドの多くには日曜市、高知城、ひろめ市場が掲載されているけれど、それにオーテピアは入ってるのかなとか、そんなことも考える。

先ほど言った、夏休みの自由研究を見ているときに、県外のカップルや家族連れも琴線に触れて、楽しいねと言ってくださっていた。ぜひそういう方たちにも広報をと思った。

(事務局)

最初のイベント関係については、これまでできることは全部やっついこうということで、どんどんやってきて少し増えすぎてしまったという反省もある。これからは、スクラップ・アンド・ビルドというか、共催のイベントについては、当初立ち上げるときに協力して一緒にやり、何年か経って自立的にやっついけるような機関・団体はこちらが少し引いて、次の新しい機関・団体との共催イベントに力を振り向けていくといったことも考

えながら試行錯誤している最中。

働き方改革ということでは、利用者の方にとっても便利な空間であると同時に、ほとんど異動がない図書館司書が、館内で働きやすいということも同時に考えていく必要があるので、イベントの数が一時的に少なくなることがあるかもしれない。そういう面での過渡期だと考えているので、少し長い目で見ていただけたらと思う。

(委員)

高知市の財政がすごく厳しくて、人員の削減や事業の停止、休止、見直しがすごく叫ばれているところなので、本当に取捨選択が大変だと思うが、それも頑張っていたきたい。いつもありがとうございます。

(委員)

皆様、日々の業務お疲れ様です。いろいろな取組、細かなサービスなどありがとうございます。

個人的には、家庭代表ということで委員をさせていただいてるが、オーテピア8年目ということで、随分時間が経ったと思う。小学生だった息子がもう高3で、今東京で大学受験の最中、歴史の試験をしているところで少しそわそわしている。学習室を中・高とたくさん利用させていただき、こういった場があるのはありがたいと感謝している。

話にもあったように、学習室は利用するけれど、なかなか本の貸出しにつながっていないのではないかとするのは私もずっと思っていた。本を読むことの大切さを、学校もそうだし、子どもたちにも伝えていくことがさらに大切だと思った。

少子化について、今回、保護者として初めて大学受験に向かってみて、少子化なのに試験が非常に難しいと思った。自分が受けたセンター試験のときよりも共通テストの方が、はるかに文章量も多いし、読解力や理解力、自分がどう思うのかとか、小論文もあったりして、大学受験は本当に大変だと実感している。なので、本を読むことの大切さをさらにみんなに知ってもらいたいと思った。3月から始まる蔵書探索AIサービスも非常に気になっている。子どもに聞いても、たくさん本がありすぎてどういう本を読んだら自分のためになるかがちょっとわかりづらいと言っていたので、こういう蔵書探索AIを使って、自分にとって必要な本、受験に出典されている本などを探せるようになれば、子どもたちもより関心を持ってくれるかと思った。

あと、人口減少のことも対策として挙げられていたけれど、高3生の周りの子どもたちに聞いても、一旦県外に出てということでも今、大学受験をしている子が多い。県外に出てみて、高知のよさや、オーテピア高知図書館が充実していることなど、他県にはないようなサービスの豊富さなどを感じるのではないかと考えている。高知から1回出てみたいけれど、帰って来たい気持ちもあるという子も結構いるようだが、そのまま県外で就職する子もいると思う。高知で暮らしていくよさみたいなものも、県外での生活を通してきっと感じてくれるのではないかと考えている。そういった意味でもオーテピアのサービスについて、県外に出ても帰って来たときに、若者サポートステーションの進路相談会など、起業や高知での働き方の可能性もあるということをぜひ学習室にいる間に伝えていただき、心の片隅に少しでも引っかかってくれたらよいなと思った。せっかくこの太っ腹なサービスがたくさんあるので、ぜひそのことは県外に出る子にも伝えたいと思う。

あと、小さいお子さんの子育て支援サービスもしているので、子どもたちを連れてオーテピアを利用しているというお父さんやお母さんは結構多いけれど、土日のイベントなどで駐車場が満車で入れなかったという声を聞く。子ども連れだと車で来る方が多く、駐車場が満車で入れなかったという声を頻繁に聞くので、周りの駐車場もあるよと教えてあげた。そういったところも少し対策があったらいいと思った。

あと1つ聞きたかったのが、本の除籍も行っているという話があった。私も、どうぞ自由にお取りくださいという場所でもいただいたこともあるけれど、絶版になっている本や貴重な本もあつたりすると思うので、除籍をする目安や基準はどういうところなのかを教えてください。

(事務局)

高知市民図書館の資料の除籍については、基本的に7年を目安に行っている。ただ、学術的なもの、例えば、生物学の恐竜などは日進月歩で情報の書き換え、上書きが進んでおり、現代の常識と合わないようになってしまうと、もっと短い周期で、どんどん除籍へ回すこともある。

意外と住宅地図などはほしいという方がおり、現状とそぐわない場合は除籍している。

雑誌については、もっと早い段階で除籍してリサイクルに回している。一般的にどれが何年という訳ではないけれど、情報提供という目的からして情報が少し古くなった場合や、ある程度の年数が経ったものを順番に除籍へ回していくような感じにしている。

(委員)

除籍に関しては、文書規程はないですか。

(事務局)

規程でも、これぐらいの期間ということで、雑誌などは何年と決めて除籍しているものもある。

(事務局)

県立図書館にも規程はある。ただ、県立図書館の場合は、雑誌や一部の本を除いて、基本的には除籍をせずに保存していくことが県立図書館の、資料保存センターという部分での使命だと思っている。

ただ、児童書については、全点購入して、書庫の一部にある選定支援コーナーで手に取って見てもらえるようにしており、そういったものは一定の年数、1年ないし2年ぐらいでどんどん入れ替えをしている。除籍したものは、まず、県内の児童養護施設に受入れの希望を聞き、そこで希望がなかったものは町村の公民館図書室に聞く、そこで希望がなかったものは市町村立図書館に聞くという順番。

(委員)

毎回、委員の皆さんの意見は、非常に参考になって勉強になると思って伺っている。

私は会長と一緒に、オーテピア高知図書館サービス計画推進委員会の委員もさせていただいているが、個人としては、AIへの対応が今非常に気にかかっている。

委員の方には釈迦に説法だけれど、AIが産業革命だという意見もあり、もう劇的にいろいろなことが変わろうとしていて、戦々恐々となるような話もたくさんある。例えば、本当に産業革命と同じだったら、家内制手工業を一掃するような副作用もあるといったこともあるけれど、委員の皆さんの意見を聞き、また、オーテピアの歩みを考えたときに、そういう片方に全寄せみたいなことはしたくないし、話にでた居心地、要するに、デジタルやAIから一步離れた空間としての、旧来からの図書館の役割というのも、これからますます大事になるだろうと思った。

特に、オーテピアがすばらしいのは、維持をしているのが県と市、つまり公共というところ。だから、ビジネスとして、AIで最大効率化して従業員の数を減らすことを行う義務がない。そのことは県民・市民の皆さん

が受け入れているので、昔ながらの図書館の役割も重要であり、さりとて、進化型図書館、課題解決型図書館としては、AIによる産業構造や社会の変化に対応するための様々な情報提供、サービスの提供をするのもまた、オーテピアの役割だと思う。だから、その両方をやっていかなければいけないという意味において、オーテピアの役割はますます深くなっていくと思っている。

今、人が生きるためにという話があったけれど、本当にすごい課題だと思っている。AIによる変化についていけなくて、取り残される方が出ないようにしたいと思う。それは、図書館が適切に、AIについての情報や本、あるいはリテラシーなどを提供することによって、全ての県民・市民の皆さんが望むレベルで、AIに対応できるようになれば素晴らしいと思っている。

もう一つ、子どもとAIは非常に重要な問題で、AIは便利だからといって、子どものころから使わせたら何が起るかという、私は非常に恐ろしいことになると思っている。

私も最近、AIにはまっている。これをもし小学生のときに使っていたら大変なことになっていたなという思いもある。ワープロが出たときに、これで漢字変換は全て解決したと思ったけれど、幸いなことに私がワープロを初めて買ったのは大学の卒論を書くときだったので、本当に天の加護があると思った。これを小学生の時に持っていたら、漢字の学習をしなかったと思う。それと同じで、何でもChatGPTに聞けばいいやということになってしまうと、人間としての成長や子どもの教育どうなるんだろう。また、高知市教育研究所の話もあったので、従来型の図書館の利用もちろん重要だけれど、学校教育とAI、図書館とAI、学校図書館とAIなどのテーマも含めて、精力的に共同研究ができればよいと思った。

読み上げ機能についてはどんどん進化していくとは思いますが、それがよいかどうかはわからない。生成AIが作る動画などは今すごいクオリティなので、読み上げ程度だったらもうとてつもない。好きな女性俳優の声でといったレベルも平気でできる状況になってきているけれど、バリアフリーでの図書館情報の提供については、安易にやってはいけなくて、何が望まれているのかというニーズをくみ上げながら、真剣に考えなければならないと思う。

それから、おもちゃの話があったけれど私は昔からすごく好きで、というのは、アメリカのほとんどの公共図書館には3Dプリンターがあり、子どもが来てデジタルデータを入れたら、おもちゃが自分で作れるということもある。そういったモノづくりについても、図書館が考えていかなければいけない。5階にみらい科学館があるので、そこの連携をうまく組み立てながらやったら、ものすごく効果があるだろうと思った。

あと、情報を流すということについては、実は基本構想の頃から私の野望があったが、当時、サービス計画推進委員会の委員に「できません」と言われて諦めた。市町村との連携の中で、オーテピアの書棚をドローンで撮影してライブ配信すれば、館内にいるのと一緒だと思ってそんな話をしたら、当時の著作権法では、背表紙であっても著作権の制限があるから配信できないとされたが、著作権法が改正になって、図書の利用を促進する程度の軽微な情報はネットで提供してよいことになったので、市町村の皆さんは、ライブドローンでオーテピアに行ったら何があるというのを見てから配送などの依頼をすれば、全ての市町村にオーテピアがあるようなことになる。そこまでいけたら理想だけれど、素晴らしいと思っている。テクノロジーの発展はあっという間だから、それができそうだという直感もあり、そんなこともゆくゆくは考えていきたいと思っている。

それから、知のセーフティネットの役割、これも非常に重要な話があって、基本構想の策定時によく会長と学習室を絶対に作れ強くと申し立てた経緯がある。公共図書館の中では、学習室は大体評判が悪い。資料を一切使わず、試験勉強ばかりすると言われたけれど、会長と私は、県民の子弟が朝から晩まで図書館に来て勉強してどこに不都合があるのかと言って認めていただいた。朝から晩まで学習できるスペースがあるのは、

高知県・高知市として非常に大きいことだと思っている。今、利用状況を見ると、すさまじいことになっていて、なかなか入れないレベルなので、こちらとしてはしてやったりという感じ。

そんな中で、3期のサービス計画の策定に向けて、委員の皆さんから参考になる意見をいただいたことは、非常にありがたかった。

あと1点、図書購入費が少し下がったと言いながらも、県市の財政事情を考えると非常に高水準で維持されていて、関係者の皆さんに深い敬意を表するとともに、ご理解いただいた本庁の皆様と県議会・市議会の先生方にも深く感謝を申し上げたいと思う。次に進むためには何が必要かを理解していただいているという意味では、本当に感謝しかない。

(委員)

次期計画の策定のことになるが、話にでたように、テクノロジーの進化とどう向き合うかというよりも、取り込まれないようにするために図書館が頑張らなければいけないし、心の栄養をどう提供するかということが大事だと思う。AIの研究者は、心だって演算の結果だということへ行き着く可能性が非常に高い。そこで表せる芽がないとは言わないけれど、何か違うだろうと。

私はずっと人文系の人間なので、何か残らなければおかしいのではないかという気がして仕方がない。図書館がいわゆる知性の宝庫であるのは間違いないし、それは非常に理性的な部分が多いのも間違いないが、心の拠り所であることが、図書館が残ってきた一番大きな理由ではないかと思う。その心の拠り所であるからこそ、居場所としていろいろな人を迎え入れる包容力があるのではないかという気がする。

ただ、これから先の次期計画の期間にどれぐらいの変化をし、何が起こるかはとても読み切れるものではないので、はっきりとしたテーマを研究することも視野に入れながら、策定に臨んでいただきたい。非常に厳しい状況にあることは間違いないが、だからこそやりがいのある仕事だと思って、オープンな議論を進め、何か良い道を見つけていただきたいと思う。

これからは、あらゆる議論がAIを無視してはできないようになっていく。図書館は最先端に立っていると言う意識で、次期計画の策定と8年度の事業の実施に向けて、頑張っていたいただきたい。

(委員)

事務局は本日の委員からの意見を、サービス計画の進捗管理や、今後の図書館運営に生かしていただきたい。

16時00分 協議終了

令和7年度 第2回 高知県立図書館協議会・高知市立市民図書館協議会出席者名簿

令和8年2月17日(火)

オーテピア 4階ホール

○委員

役 職 等	氏 名	備考
高知市立朝倉小学校長、高知県学校図書館協議会会長	高 橋 祐	
高知市一宮ふれあいセンター長、元小学校長	上 村 国 之	
横浜小学校区青少年育成協議会 代表推進委員 元高知市青少年育成協議会理事	西 尾 敦 子	
津野町教育長	久 寿 久 美 子	
フリーアナウンサー、子育て支援員 第四次高知県子ども読書活動推進計画策定委員	花 房 果 子	
元高知市保育園長	神 野 万 里	
特定非営利活動法人こうち企業支援センター理事長	田 村 樹 志 雄	
高知大学名誉教授	加 藤 勉	
高知工科大学情報学群長	篠 森 敬 三	
特定非営利活動法人高知市身体障害者連合会会長	中 屋 圭 二	

○事務局

所 属 等	職 名	氏 名	備考
高知県立図書館	館 長	杉 本 幸 三	
	副館長	岡 村 祐 人	
	専門企画員(司書育成・サービス推進担当)	尾 形 千 晶	
	企画調整課長兼チーフ(企画調整担当)	西 岡 政 雄	
	チーフ(総務担当)	吉 永 伸 子	
	チーフ(図書利用担当)	谷 岡 祥 子	
	チーフ(情報資料管理担当)	渡 邊 哲 哉	欠席
	チーフ(支援協力担当)	鈴 木 章 生	
	企画調整課 司書	八 田 裕 子	欠席
	企画調整課 司書	上 岡 真 土	
	企画調整課 司書	和 田 香 織	
	企画調整課 司書	南 昇 平	欠席
企画調整課 主任	那 須 真 紀		
高知市民図書館	館 長	小 新 貴 士	
	副館長	横 川 良 明	
	主幹兼図書利用担当係長	川 村 紀 代	
	図書利用担当係長	川 村 美 里	
	図書利用担当係長	渡 辺 佑 介	
	資料管理担当係長	徳 平 晶	
	管理担当係長		
高知市 図書館・科学館課	課長	弘 瀬 友 也	